

シカゴより

倉 橋 惣 三

今日(三月二十九日)『幼児教育』の二月號が著きました。先づ、包み紙の美濃紙と、毛筆で書いてある上書きの墨の色とに、だしぬけに、日本服の友達に遇つた様な軽い可笑し味と、言ひ難いなつかしさ、を感しました。私はすぐ、友達に、其の濫い好みの茶羽織を脱がせました。どこ迄も地味な、生真目な友達は、去年、故郷で會つて居た時と同じ著物を著て居ました。——私は、此の始終見慣れた、飾り氣のない表紙を眺めて、いろ／＼の事を思ひました。

桃圃さんの、「我園保育の近況」は、何といふこまやかな記載でせう。野分けの風のあとの、澄み切つた空の下に、朗かな日光が漲る様に充ちて居て、その中を、小さい羽を光らせて飛んでゐる赤トンボの群と、強い秋の日に頬を紅くして、額を少し汗ばませて、それを追ひかけて居る子供達とが、浮き繪の様に眼に見えて來ます。子供の、ものの見方の裡に見出された嚴肅な教訓の貴さは申す迄ありません。

中澤さんの、「勅題にちなみて」の唱歌は、彥根幼稚園の美しい吉例であるとともに、それを掲載する『幼児教育』にとつても、年々の嬉しい吉例です。皇室から國中へ御題を賜はつて、それを歌にし、作曲して、自分の園の幼児達に唱はせるといふような美しいことが、我が國ならで、どこの世界の幼稚園にありませう。

「我園の一日を」は、本當に賢い編輯振りだと敬服しました。殊に、私にとつては、斯うして、一時に、いろ／＼の方のおたよりを、聞き得ることが、どんなに幸なことか知れません。私は、總べての方の御報告に、一々深い興味と、それ／＼の個人的の聯想とを以て、細かに讀みました。その各々の中に含まれてゐる、保育上の多様な問題は、私に、いろ／＼のことを考へさせました。併し、それは、簡單な書翰では、到底、書き盡し難い事です。たゞ、斯うして、色々様々な工夫と努力とを以て、學理的一律や、法令的劃一に捉はれて居ない我國の幼稚園教育を、

今更の様に意味深く考へた事だけを一言させて頂きます。

奈良女子高等師範學校保姆養成所の新設は、非常に喜ばしい事と思ひました。此の新しい計畫は、豫ねて、横山校長から、漏れ聞いて喜んで居た事ですが、愈々實現されたのは、我國幼稚園教育の發達の上に、どんなに賀すべきことか、測られませんが、こちらは來て見て、我國に、保姆養成所のたりないことを、一層深く思つて居る處です。この報知を、一層の喜びを以て迎へざるを得ないのです。

サンフランシスコからの、私の繪葉書が、貴重な(殊に紙代の非常に高いといふ)一頁を占領して居るのは、恐縮にたえません。しかし、それよりも、尙ほ恐縮な事は、此地著後の非常な御無沙汰です。此の繪葉書を見て、急にすまない氣がして來ました。

お約束の紙上通信は素より、出發の朝、わざわざ見送つて下さつた方々、懇ろなお手紙で送別して下さつた方々、海上まで無線電信で道中安全を祝福して下さつた方々に、まだ、何の御挨拶も申上て居ないのです。又、更めておたよりはなくとも、私の旅を何彼と心に懸けて居て下さる方々の多くあることを

知つて居るのですが、まるつきり、四方八方への御無沙汰で、申譯けがありません。誠に延引ながら、誌上を借りて、遅ればせの御禮や、お詫びや、無事のお知らせやらを申上ます。

「大會所感の記事を讀みて」は、今迄、らかな道を歩いて居たものが、ふと立ちすくんだ様な心持ちで思はず眉をよせました。しかし、私は、直ぐ、眉を開きました。我國多數の幼稚園關係者が、何も、そう、口をあはせて、始終、同じことばかり云つて居なくてもよい。いゝ加減な調和よりも、時には調子のくひちがひに、大きなオーケストラの面白味もある。つまりは、同じ大きな歌だと思ふと、再び、らかな心持ちになりました。十二月號に出て居た大會所感の主旨が、どういふのであつたか記憶して居ませんが、此の文に抜き出されてある所だけを拾つて見ると、關西の一會員君の言はるゝ所も、至極く無理もないと思はれます。しかし、ある所だけをぬいて見ると、そこが強く響いて來るのは、免れないものです。それに、十二月號の所感の筆者が、意あつて言葉たらずといふべきか、或は、心よりも。言ひ方が一方に偏り過ぎたといふべきか、つまり、所

感の一面を強すぎる程エンファサイズ(力をこめて)

して言はれたらしい様に思はれる點もあります。殊に十二月號の所感の筆者も、大會を批評したのではなくて、大會で感じた事を言はれたに過ぎますまいし、關西の一會員君も、そこは氣を悪くしないで頂きたい。何もこんなに氣にしたり、仲裁めいた言ひかたをしたりするにも及ばないことゝも思ひますが、此の文の中に、東京對關西といふ様な處のあるのが私には心に懸るのです。我國の幼稚園教育の發達は、所謂、全國一致でなければならぬといふのが、私の平生からの信念でもあり、祈願でもありません。折角全國の大會が、第一回、第二回と開かれて、第三回の開催地も、まだ定まらずに居るといふ時に、こんなことで——殊に大會そのものが因になつて、多少でも東西の感情に、わだかまりが出来る様な事があつたら、これ程悲しいことはありません。勿論そんな心配をするまでもなく、取り越し苦勞に過ぎないとは信じてますが、一度言ひ、一度應へて、あとはいさつぱり、互に隅田川と淀川との水に流して下さい。呑氣な積りでも、旅の身は、聊か、心配性になつてゐると見えます。氣になるまゝをお二人の筆

者に申上げて置きます。

さて、これで、七十八頁が終つて、この次の三月號は、今頃、船の中でゝもありませんか。

こちらの幼稚園の模様も申上る筈ですが、之れも不精ばかりしてゐます。シカゴ大學の幼稚園へも一週間程入り浸つて、先生方とも、目の碧い、髪の紅い、人形の様な子供達とも懇意になりました。たゞ、何しろ、私一人で見ていることですから、間違ひがあつては、幼稚園へも、讀者諸君へもすみませんし、それに、いくら、見たまゝを書くつもりでも、私が出ないでもいゝ意見が、ちよい／＼頭を出ませうし、人のしてゐる事をうつつかり批評してもわるいと思つて、又、一度、變つた時に見てから更めて考へやうと思つてゐます。それに、見てゐると可愛くばかりなつて、觀察がどうもお留守になるのです。まあ、細かいことは、歸りましてからといふことにして頂ませう。たゞ實際保育の細かいことのほかに、シカゴ大學として、幼稚園教育を、どう取扱つてゐるかといふ方針の様なものは、大體でも何か申上りたいものだと思つて居りました所へ、丁度いゝ都

合に、大學から出る初等教育の雜誌に、テンブル女史の論文が載りましたから、それをお送りして、御苦勞様ながら、編輯部の方に譯載して頂きませう。テンブル女史は、シカゴ大學教育大學の助教授で、幼児教育の理論の講義と、學生の保育實習の指導をして居る人です。之れで大體を御承知下さい。

來た時は雪に埋つて居たこの地も、すつかり春めて來ました。ロビンが、晴かな聲で囀るるやうになりました。公園や路傍の芝が、急に、美しい濃い緑になりました。ミシガン湖の氷が、あどかたもなくどけて、春らしいやわらかい磯波に、之も一段と春らしい月の光が、もつれあふ様になりました。ただ、閉ぢ籠めた嚴しい冬よりも、やさしくほどけた若い春に、旅のひとりを思はせることが多くあります。

さて、この手紙が皆さんにお目にかゝるのは、新しい青葉が、日本全島を包んでゐる頃でせう。

遙かに、親愛なる諸君の御健康を祈ります。

机邊より

○悲惨きはまる奥國の兒童

奥國では食糧の缺乏益々甚だしく殊に牛乳の供給不足で子供の養育が困難となり、止むなく三四歳乃至五六歳の男女兒童數萬人を、牛乳の豊富な和蘭や伊太利に送り込み、こゝ數年間各國救濟團の手で育てあげてもらふ事にしました。

しかるに、この兒童列車が、首都維也納ウィーンを出發する時、實に慘憺たる光景が演出されました。市長は先づ、これら外國行きの子供團に訓示を與へ、「お前さん方が外國に居る間、國元のお父さんやお母さんば、きつと丈夫に暮して居る、永いことはない、きつと二三年の間である、行つた先きの外國のお友達には、必ずさう言ひなさい—オースタリーの景氣がなほつたら、今度はお禮のため、きつと、皆様を御招待いたしますと—」

見送りの母親達は皆聲をたて、嬉じなきに泣き叫びました。しかしいよいよ汽車が動き出すと、車窓の中の我子を奪ひ返さうとして護衛の巡査隊と格闘を始め顔を爪で引つ掻かれた巡査が大勢あつたさうです。
〔愛國婦人「第四四〇號の中より……」〕

* * * * *

何といふ光景でせう。何といふ事實でせう。母の手から奪はれてしらない國へ牛乳を飲みに行かなければならない幼兒達!!
大戰の餘波は何處までひびくかわかりません。